

狂言学習：舞台稽古が始まりました（6年生）《NO.3》



『柿山伏』より



【山口先生より】
 「声はよく通っています。」

●舞台上の位置取りを意識して演技をしましょう。



●山伏は、下を見る。（高さを表す）山伏は、畑主を見ない。
 ●狂言のおもしろさは、3m50cmを、5～6mや2～30mに表現できること。狂言は、無駄な動きをそぎ落とした芸能である。（狂言の知恵）
 狂言のおもしろさを理解してほしい。「見て言う」「見ないで言う」で表現するもの。
 「見ないで言う」ことが、「柿の木から飛び降りるところにつながる。高ーい木を表現している。

●畑主は、楽しそうに、ゆっくり歩く。
 舞台上で、どの位置にいるとバランスがよいかを考える。
 ●畑主は、柿の林を「見て」は、眺める感じ。「一夜のうちによう色づいたことかな。」で、顔を動かさずに柿の林を見る。右半分を見る感じ。（顔を振って見ると、近い感じを表す）
 遠くを見るようにする。
 ●畑主の「あ痛」は、見ずに言う。横歩きはしない。
 ●畑主は、「はて合点のゆかぬ・・・」は、山伏を見ない。
 ●セリフを言わない時間を怖がらない。視線は、天井を見る。



●前の人をよく観察して、同じように演技をする。扇子の開き方等、わずかなことだけれど、きっちりとやってほしい。
 ●楽しく演じる。
 ●山伏の心情を想像して演じる。
 「まず人でないと言う。」のところは、内心ドキドキしている感じ。
 「よオ、みどもが鳥に見えるかしらん。」のところは、ゆっくり言う。
 ●「こくわあ、こくわあ、こくわあ」は、早く言おうと思わないように！
 「きゃあ、きゃあ、きゃあ、きゃあ」は、扇子で顔を隠して、指に力を入れて、指先（爪）でかく。
 ●目を動かさない。空中の一点を見て、目を動かさないようにする。（隠れている状況を表現）



●飛ぶ時に、羽をはばたかせる。転がった時は、「ア痛、ア痛、ア痛」につながった動きをする。左脇を床につけて、右腰をあげる。
木から落ちるというよりは、飛ぼうとする感じ。役の山伏は飛ぼうとしている。わずかなことだけれど、意識することは大事。

【山口先生より】「上手です。」



●畑主は、山伏を落とすのが目的です。



●「えいえい、やっとな。」を力強く言う。
●畑主は、橋掛かりの向こうまで行く。



●畑主は、「マ、こうしておいたがよい。」で、振り落とす。

●山伏の「よいなりの、よいなりの」は、胸を張って、中へ入ってしまう。最後の印象が違ってくる。ある意味、「柿山伏」を閉めている。

『猿唄』

- 謡いだしをしっかりと！リーダーは、「はーあっ」を力強く言う。全員が一斉にお腹に力を入れて「㊤るが」という。『さ』に全神経を注ぐ。※最初の音をバシッと揃える。
- 謡は、誰もが精一杯頑張らないといけない。誰か一人でも力を抜くと成立しない。「はーあっ」が、大事。
- 最後の「めでた」を強調する。「けーれー」は流す感じ。※入退場、胸を張って堂々と。

【山口先生より】

- ・自分の技が上達するのを楽しんでほしいです。今までできなかったことが、できるようになる。少しずつ少しずつできるようになってくる楽しさを味わってほしい。セリフもゆっくり言えるようになってきました。
- ・みなさんは、素直によく稽古をしていて、確実に上達している。うれしいことです。ひしひしと伝わってきます。上達してきたから、自信を持って、喜びを感じてください。
- ・狂言は、初めからつくりごとをしているから、楽しみましょう。もっと遊んでいいです。自由奔放に動いたらいいです。
- ・案外目立つのが後見です。後見座から所定の位置に行くところは、堂々と歩きましょう。演技の歩き方とは違います。